

潜伏キリシタン

信仰の記憶としての十二の遺産



イエズス会司祭
日本カトリック司教協議会
列聖推進委員会秘書

平林 冬樹

新たにユネスコ世界遺産に指定された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は、日本列島最西端に刻まれた近世キリシタンの記憶である。中でも、長崎・熊本両県に点在する十二の構成資産は、江戸期の弾圧に屈しなかった人びとの信仰の記憶を留めるものである。

今年の七月、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界の宝として認められた。二〇〇一年九月に「長崎の教会群を世界遺産にする会」が発足し、二〇〇七年七月にユネスコから世界文化遺産候補に承認されて以来、十年ぶりの朗報である。今回の登録によって、キリスト教に関連する日本の歴史的な遺産が、世界から高い評価を得たこととなり、他に類を見ない日本のキリスト教の歴史が、世界の耳目を集めることにもなる。

キリスト教の繁栄と苦難

一五四九年八月のフランシスコ・ザビエルの来日以後、キリスト教は多くの日本人に受け入れられた。信者数は一六〇〇年初頭の時点で、推定総人口約千二百万人のうち、五十万人以上にまで増えたと思われる。しかし、豊臣政権と、それに続く徳川政権は、

鎖国政策と相まって、キリスト教の信仰を約二百六十年もの間、厳しく禁じた。その間の殉教者の数は、数万人に及ぶ。だがそのような厳しい迫害の中にあっても、信仰は長崎や天草地方、福岡の今村などで受け継がれた。信徒たちは、表向きは寺の檀家となることによって、キリスト教の信仰を守る手立てを講じたのである。教えと教会暦に通じた帳方、洗礼を受ける水方、聞き役・ふれ役などの組織を守り、信心会（組）を持つことを通じて信仰を伝え続けたこと、これが「潜伏」の実体である。

信徒は「改心」、すなわち「棄教」か、いのちを失うかの二者択一を迫られるという理不尽な扱いを受け、周囲から差別を受けながらも力や論戦で政権に反抗することなく、最終的に「信教の自由」という基本的人権を勝ち取った。社会的には何の益もないどころか大きな不利益を被り、重大な犠牲を払いながら二世紀半の間、信仰を守った人びとの記憶を留めるものとして、今回の世界遺産は世界に例をみないものである。

キリシタンの復活

一八五八（安政四）年に、米、蘭、露、英、仏の五カ国の要求により、江戸幕府は修好通商条約を締結し、長崎などの開港に応じた。長崎の外国人居留地になった大浦には、パリ外国宣教会がフランス人のために天主堂を建立した。一八六五年三月一七日、浦上のキリシタンたち十数人が密かにここを訪れ、自分たちの信仰を司祭に告白したこの出来事は、「日本の信徒発見」と呼ばれ、キリシタンの復活のきっかけとなった。

信徒たちは七代に渡って待ち望んできたカトリック司祭の到来に勇気づけられ、隠し続けた信仰を公に表明するようになった。ところがその結果、一八六七年七月十五日未明、長崎奉行により一斉検挙が行われた。世に言う「浦上四番崩れ」である。翌一八六八年、幕府の禁教政策を踏襲して発足した明治政府は、浦上の信徒三千六百余人を二十藩二十二

か所に分けて配流した。この事態を憂えた欧米諸国は、日本政府を強く非難し、不平等の通称条約の改正を期して派遣された岩倉具視遣外使節団を行く先々で痛烈に非難した。こうして、一八七三年二月に「切支丹禁制の高札」が撤去され、さらに、十六年後に公布された「大日本帝国憲法」第二十八条において、ようやく不十分ながらも信教の自由が認められたのである。

一八七三年三月、浦上の信徒は帰郷を許され、四月から七月、配流地を後にした。信徒らが最初にしたのは教会堂の建立である。これらを拠点に、信徒たちは潜伏期を通して受け継いだ信仰を生き、そのことを後世に伝える共同体の存続へと繋いだ。世界遺産に指定された教会堂は、そのほんの一部であるものの、信徒たちの潜伏と復活の歴史を静かに証している。

□ 掲示板

☆ バチカン写真展

六月二十八日にバチカンで行なわれた、荘厳な新枢機卿叙任式の様子や、前田枢機卿の名義教会となったサンタ・ブデンツィアーナ教会の写真を入口脇スペースとシヨークースに展示しています。

当館友の会会員の古郡美はるさんによる美しい写真を是非ご覧下さい。



利用者の声

聖三木図書館の本との出会いにより海外研修へ

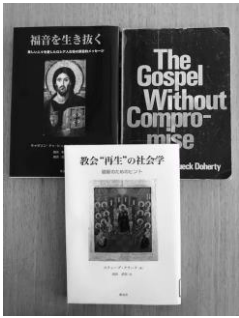
高浜武則

二十代半ばの一年間、私は塾や家庭教師のアルバイトをしながら空いた時間を専ら本の乱読で過ごしていた。聖三木図書館からも英語の本を含め多数の本を借りて読んでいたが、「この本はとていいのになぜ誰も翻訳出版しないのだろうか？」と疑問を抱くほどの良書に何冊か出会うことができた。

そのうち「こんなにいい本は誰かに翻訳してもらうべきだ」と考えるようになり、やがて、他人に頼んでも仕方がない、自分がいいと思った本は自分で訳すしかないという覚悟を決めた。結局、三十代に二冊を翻訳し、自費で簡易製本化した。

四十代の時、職場の大学から約四十日間の海外研修に行ったのであるが、行き先は、通常の大学ではなく、かつて聖三木図書館でみつけた本の著者(キヤサリン・ドウ・ヒュイック・ドウハーティ)が創立したマドンナ・ハウス共同体(カナダ・オンタリオ州)であった。その本というのは、私が五十代になって翻訳出版した『福音を生き抜く』の原本のことである。

結局、私は聖三木図書館で出会った本を三冊翻訳出版したほか、そのうちの一冊をきっかけにカナダのカトリック系契約共同体で祈りと労働の貴重な共同生活を体験することができた。本との出会いはすばらしい！



『福音を生き抜く』
『教会“再生”の社会学』
高浜武則訳

***** 今聖三木で読まれている本・新しい本 *****

- | | | |
|--|--------------------------------|--------|
| 主よ一羽の鳩のために： 須賀敦子詩集 須賀敦子著 | 神谷美恵子： 生きがいについて(100分de名著) | 若松英輔著 |
| ミサの鑑賞： 感謝の祭儀をささげるために 吉池好高著 | イエスの実像に迫る | 曾野綾子著 |
| ザビエルの夢を紡ぐ： 近代宣教師たちの日本語文学 郭南燕著 | 潜伏キリシタン関連 | |
| より良き死のために：「死への準備教育」創始者が伝えたいこと アルフォンス・デーケン著 | カクレキリシタン： 現代に生きる民族信仰 | 宮崎賢太郎著 |
| 修道院の風 原造著 | 潜伏キリシタンは何を信じていたのか | 宮崎賢太郎著 |
| おさなごのように： 天の父に甘える七十七の祈り | キリシタン信仰史の研究 | 五野井隆史著 |
| あなたはそのまま愛されている 晴佐久昌英著 | 守教 上・下 | 帯木蓬生著 |
| キリスト者の希望： 教皇講話集 教皇フランシスコ著 | 長崎と天草の教会を旅して： 教会のある集落とキリシタン史跡 | 繁延あづさ著 |
| トマス・アキナス： 理性と神秘 山本芳久著 | かくれキリシタン： 長崎・五島・平戸・天草をめぐる旅 | 後藤真樹著 |
| 聖書の成り立ちを語る都市： フェニキアからローマまで | 消された信仰： 「最後のかくれキリシタン」長崎・生月島の人々 | 広野真嗣著 |
| 東京の名教会散歩 ロバート・R・カーギル著 鈴木元彦著 | | |

お知らせ

☆夏期休館

八月二十二日(水)～八月三十一日(金)まで休館いたします。休館中の返却は入り口右手の返却口にお願いいたします

☆夏期長期貸出

八月一日(水)より長期貸出を始めます。

☆館報「みき」は聖三木図書館内で自由に持ちいただけます。また、当館ホームページでは「みき」とご好評をいただいております。各号をご覧いただけます。郵送ご希望の方はその旨お申し付け下さい。

友の会からのお願い

☆聖三木図書館友の会発行の聖三木図書館利用カード(有効期間は一年)の更新手続きと会費の納入はカウンターで受け付けております。

年会費 一般 二〇〇〇円
学生 一〇〇〇円

賛助会員 五〇〇〇円・一〇〇〇〇円

☆年会費をお振込みで納入される場合
みずほ銀行四谷支店 普通預金

口座番号 115848

口座名義 イエズスカイセイミキトシヨカントモノカイ

(※お名前の前に会員番号をお書き下さい。)

☆新規入会の手続きは随時カウンターで受け付けます。住所確認のため、免許証・保険証をご提示ください。

聖三木図書館報『みき』第5号

イエズス会聖三木図書館

〒102-0083 東京都千代田区麹町6-5-1

岐部ホール2F TEL: 03-3262-0364

URL: http://www.jesuits.or.jp/~j_semikibun/